

落語と朗読のつどい

- 3.4 谷中空襲への記憶 -

63年前、谷中に空襲がありました。戦争の記憶は、日々に薄れていきますが谷中に残された戦跡や「三四真地蔵」が語りかける思いを忘れることはできないでしょう。

本日は、寝床家道楽さんに落語を、詩人の葛原りょうさんに朗読を演じていただき、みなさんとの懇談もおこないたいと思います。地元の戦災体験者の方からのお話しも聞いていただけます。みなさんのご参加をおまちしております。

日時：3月4日（火）6時30分開演（6時受付）

場所：谷中コミュニティ和室ホール 資料代 300円

主催：「谷中九条の会」「谷中歴史の会」

お問合せ：03-5815-8586(木下) HP: <http://www.voi.co.jp/9jou>



演目「七段目」 寝床家道楽師匠

東京・浅草生まれ、浅草育ち。10歳で宮城に疎開するが、両親と兄弟が居た家が東京大空襲に遭い、戦災孤児となった。平和への思いから全国各地の「九条の会」にも多数出演する。古典から創作落語まで幅広い話芸には定評がある。

葛原りょう（くずはらりょう）

17歳から詩作をはじめ。アルバイトの傍ら、短歌、俳句、朗読などジャンルを越えて活動中。詩人会議 2004 年度投稿最優秀賞、2006 年度第4回「詩と創造」奨励賞受賞。NHK ラジオに2回出演する。詩集「朝のワーク」「魂の場所」他。現在池之端に暮らす。

